

2005年7月11日 中京大学図書館発行

ことばの散歩-8-

リンゴのお話し

図書館長 安村 仁志

もっとも親しまれる果物の一つ、リンゴのお話しです。

原産地はカザフスタン南部から中国の新疆ウイグル自治区にかけての中央アジアの山岳地帯、コーカサスから西アジアにかけての寒冷地だといわれています。カザフスタンの首都アルマトイは、旧ソ連時代はアルマ・アタといい、アルマ(リンゴ)、アタ(祖父)から「リンゴの祖父」の意味をもつとされることが多かった(実際はそうではないらしい)が、周辺には野生のリンゴが多種育っており、リンゴの原産地であることを示しています。ユーラシア大陸に広がり、日本には古くは中国から渡来しました。一般に「和リンゴ」と呼ばれる小さなリンゴですが、記録上は平安中期の918年に遡るそうです。林檎(りんきん)と呼ばれていました。中国の書物に、実が甘く、多く禽(鳥の意)がその林に来るとの記述があることが語源とされているようです。この「林檎」が発音上「リンゴン」を経て「リンゴ」となったといわれます。その後ポルトガル人が西洋のリンゴをもたらしました。ポルトガル語ではマサン *maçã*、*mação* と呼ばれていましたので、「麻三」という字があてられました。そして、明治に入ってアメリカの品種を導入して日本定着がはかられました。

古代ギリシア語ではメーロン $\mu\eta\lambda\omicron\nu$ と呼ばれていましたが、もう少し広く、丸い物全般を意味していたらしく、イチゴ類を除くすべての果実を指していたといわれます。今日のメロンはギリシア語の「メーロ・ペポン」即ち、「熟した(ペポン)」「メーロン(果実)」が元で、略されて出来たことばですが、そのことを表わしています。また、治療薬としても重宝されたハーブの「カモミール」はリンゴの香りをもっていたことからギリシア人が「カマイ・メーロン(地面のリンゴ)」と呼んだことに端を発します。リンゴのことをラテン語ではポムム *pomum* といいますが、これも本来は果実全般を指していました。それが俗ラテン語で「リンゴ」に特定して使われるようになり、定着したとのこと。このように「リンゴ」をあらわす語がリンゴだけでなく果実全般をも指していたことは、「ペルシャのリンゴ」が桃、「メディアのリンゴ」がオレンジを指していたこと、フランス語でジャガイモのことを「地面のリンゴ」*pomme de terre* といい、古くは「愛のリンゴ」でトマトを指していたことなどに現れています。ラテン語系の言語にはリンゴをポムとかポマとするものがありますが、ここから「ポマード」という単語も出ています。もともとリンゴを原料とした、肌につける香料入りの軟膏のことだったからだそうです。さらに、英語の *pineapple* も「パイナップル」の「アップル＝実」で、「松か

さ」を指す語でしたが、いわゆるパイナップルを見たとき、「松かさ」を連想したスペイン人がつけた（スペイン人は南欧松 pin pignon の松かさ に似ていたので、ピナス pinas という名を考案したらしい）ということに基づいているといえます。本来の名は「アナナス」です。同じような発想から、いやですが、「手榴弾」も pineapple となっています。

リンゴといえばエヴァとアダムが食べてしまった「禁断の実」が思い浮かぶのですが、旧約聖書の「創世記」には果実の名は書かれていません。では、なぜリンゴと特定されることになったのでしょうか。一つの説は、ラテン語で「リンゴの木」を指すマールス（今日もリンゴの属名はマールス）と悪（マルス）が同じ綴りであったことからきていて、とされるものです。食べたことで善と悪（マルス）を知ってしまったから、その実はリンゴ（マールス）だということになったというのです。この考え方に基づいて生まれた表現が、「アダムのリンゴ」で、「のどぼとけ」に当たる語（Adam's apple など各国語にある）です。アダムはリンゴを食べたとき、神の声に慌てて飲み込み、のどにつまらせたため、男は喉にふくらみが出来たと考える俗説です。

話題を変えましょう。ヨーロッパでポピュラーな果物であるリンゴは、諺にも多く登場いたします。代表的なものに、「リンゴの実はリンゴの木から遠くへは落ちない」（“蛙の子は蛙”に当たる）、「赤いリンゴと敵の友情を信じるな」（見た目だけで人や物事を判断するなかれ）、「赤きリンゴに投石する者、跡を絶たず」（“出る杭は打たれる”に当たる）があります。リンゴは体にいいとのことから、「一日一個のリンゴは医者を選ばせる」「リンゴが赤くなると医者が青くなる」といった表現もあります。また、リンゴには「実り」、「知恵」、「いのち」などさまざまな表象性が与えられていますが、「いのち/永遠のいのち」との関連から、多くの物語で重要な役割を担っています。ワーグナーの『ニーベルングの指環』では、女神フライアが栽培する黄金のりんごを毎日一つずつ食べて、永遠の若さを保つ神々も、巨人の兄弟がフライアを連れ去ったため途端に老い衰え、莫大な黄金を巨人に与えてフライアを取り戻し、若さを回復するといったことが物語られています。グリムの童話やストラヴィンスキーの『火の鳥』には「食べれば丈夫になる」「黄金のリンゴ」が登場します。一方、いのちを奪う「毒リンゴ」はグリム童話などにたくさん出てきます。また、カフカの有名な小説『変身』では、主人公グレゴール・ザムザは毒虫に変身後それを嫌った父親の投げたリンゴを身に受けて、それが致命傷となって死んでいきました。

『創世記』においてアダムとエヴァが食べた実がリンゴだったとは、先に述べたように根拠のないことですが、古くからそのように受けとめられてきて、それがクリスマス・ツリーの飾りとしてのリンゴにつながってきます。最初の人間アダムが神への不従順により“リンゴ”を食べてしまったことで人は罪を負うものとなり、死ぬべきものとなりましたが、人間の罪を負って十字架にかかって死に、死に打ち勝ち復活した第二のアダムとしてのキリストの誕生を祝うクリスマス・ツリーにリンゴがつけられるようになったようです。旧約聖書の『雅歌』には何箇所かでリンゴが登場します。「私の愛する方が若者たちの間におられるのは、林の木の中のりんごの木のようにです。私はその陰にすわりたくいと切に望みました。その実は私の口に甘いのです」（雅歌 2:3）などですが、概ね、美しいものとして使われています。

最近のリンゴは大きく、赤く、見栄えだけでなく中身も甘く、おいしいですね。その分少し人工的な感じもします。見かけを重視する世の動きを象徴しているのかもしれませんが、素朴な、ちょっと酸っぱい、リンゴが懐かしく感じられます。

クイズ：三国志の傷

教養部（中国語、中国文学）明木茂夫

ひとつ古書に関するクイズをお出ししよう。その前にまず糸綴ち本（線装本）の基礎知識から。昔の紙は薄くて両面印刷ができない。そこで一枚の紙に左右二ページ分を一度に印刷して真ん中で折り、それを重ねて糸で綴ちて本にする。その折り目になる部分を「版心」といふ。みなさんおなじみの原稿用紙、あの真ん中の折り曲げる位置を示す記号のある部分、あれは古書の版心を真似たものだ。そしてその折り曲げる位置を示す魚の尻尾みたいな記号、これを「魚尾」といふ。版心には魚尾以外に書名や葉数（ページ番号）も記入される。だから古書の葉数は現在の本のページ番号とは数へ方が違ふのがお分かりだらうか？ 版心の位置で葉面を半分に折ると、元々版心の左側にあつたページは裏側、版心の右側にあつたページは表側、といふことになる。ゆゑに古書ではページ数を「第〇葉の裏」「第〇葉の表」といふやうに数へるのである。ある葉の裏は見開きの右側ページ、次の葉の表は見開きの左側ページ、といふことになる。そして葉数は版心に一つしか書かれてゐない。おまけにそこで折りたたまれてゐるので数字も書名も半分しか見えない。ここまでの理屈はお分かりかな？

中京大学の図書館には『三国志演義』の刊本が収蔵されてゐる（222.043/Mo11/1-20）。二帙（ちつ：本を収める箱のこと）、全二十冊、縦24.5センチ横15.5センチ。おそらく清代の版本だらうと思はれる。帙はたぶん後に作り替へたものだらう。それはよいのだが題箋（書名を書いて表紙や帙に貼る細長い紙）の文字がマジックペンで書いてあるのは興ざめだ。やはり毛筆で書いて欲しかった。

古書といふものは同時に出版された同じ書物でも一冊一冊手作りされるものだし、蔵書家が手を加へることもあるから、やはり一冊一冊どこか異なる。だから丁寧に見てゆくといろいろなことが読み取れて楽しい。この『三国志』は保存状態も良好で虫食ひもない良本だが、残念ながら後刷りらしく、ところどころ文字が不鮮明なところがある。木版の場合刷りを重ねるとどうしても版木が傷んでくるのは致し方ないことだ。

さていよいよクイズである。残念なことにこの『三国志』には葉面を横断するやうな版木の傷が何箇所か見られる。細い空白部分がまつすぐ走つてゐるので、おそらく年月を経て版木が反つて割れ目を生じてしまつたのをそのまま印刷したのだと思はれる。しかし上で確認した印刷・製本の手順を思ひ起こしてもらへば、この版木の傷は必ず一葉分で止まつてゐるはずであることはお分かりだらう。一枚の版木で一葉を印刷するのだから当然だ。

ところが不思議なことにこの『三国志』刊本には、この傷が一葉を越えて次の葉まで続いてゐる場所が複数存在するのである。全く同じ位置に同じやうな傷が、右側のページから左側のページにあたかもつながつてゐるかの如くにならんでゐる。しかもそれが何箇所もあるので、別の版木に偶然同じ傷ができたのだとも考へにくい。ある葉の裏から次の葉の表へ、言い換へれば見開きの右側ページから左側ページへ、糸で綴ちた合はせ目をまたぎ越してこの傷が続いてゐるのはいつたいなぜなのだらうか？ さてここで一度この Culib ニュースを置いてみなさん考へてみませう。

・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

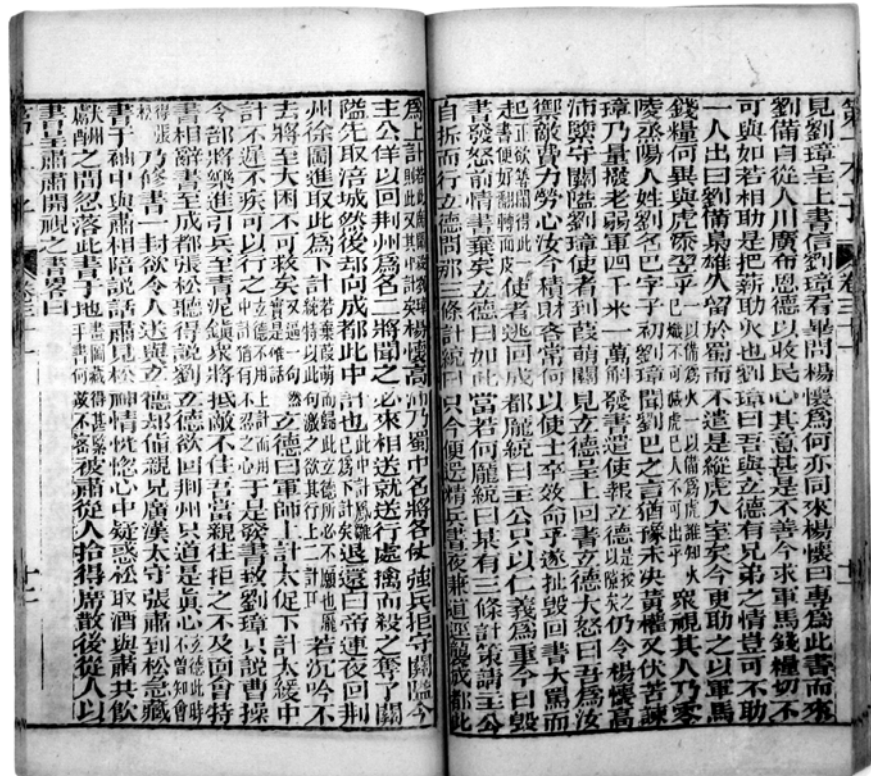
さてみなさん、答へはお分かりだらうか？ 授業でこの質問をしたところ、横に長い版木に複数の葉面が並べて彫つてあり、そこに割れ目が生じたからだといふ答へが返つてきた。うん！ いいところを突いてゐるが、版木にあまり長い板を使ふと年月を経て反りやすく、実際はさういふことはない。他の推理はないだらうか？

さう！ その君、正解！ これは一枚の版木の裏表に文字が彫つてあり、そこに割れ目を生じたがために起こつた現象である。同じ板の裏表だから当然同じ位置に印刷の欠けを生ずることになる。本学図書館には版木の実物も所蔵されてゐるのをご存じだらうか？ 明治時代のものだが『詞の経緯』（ことばのけいゐ）といふ本の版木である（810/Ko94）。実際に手にとつてご覧になると分かるやうに、確かに一枚の版木の裏表に文字が彫つてある。そして年月を経て木が反らないやうに左右に当て木がしてあるのも分かるだらう。一つの版木を彫るには大変なコストがかかる。昔の本屋にとつて版木は大切な財産だつた。だから現物を見ると一枚一枚でいねいに彫られてゐるのがよく分かるし、大切に保存されたこともよく分かる。また少々割れが生じては直ちに廃棄するわけにはいかない。なんとか使へる限りは繰り返し印刷したことだらう。おそらくこの『三国志』を出版した清代の本屋にも同じ事情があつたに違ひない。図書館に潜り込んで昔の本を丁寧に見てゆくと、いろいろなことが分かつてとても楽しい。

卷三十一

第十二葉表

第十一葉裏



ここに版木の傷がある。左右の頁にまたがつて続いてゐる。

私の書棚

2005年・夏



空調の良く効いた涼しい部屋にいる筈なのに、ページを捲る指先が汗ばんでいることはありませんか。除湿されたカラカラの部屋にいる筈なのに、目が涙で濡れていることはありませんか。夏を思い、夏を忘れる、「汗と涙」の新刊3冊が巻に到着です。

恩田陸 蒲公英草紙常野物語

それは「希望」か「絶望」か？ 絵巻物のように
儂くも美しい、ひと夏の歴史ファンタジー

もしも未来を知ることができたなら。もしもあの人の記憶や気持ちが読み取れたなら。誰もが一度は欲しいと願う、そんな能力を有する一族「常野」の物語である。

舞台は明治。主人公の少女・峰子は、地元の有力者、楨村家の次女・聡子の「お話相手」を命じられる。聡子は生まれつき体が弱く、長いこと病床に臥したままなのだった。やがて峰子は、儂くとも、溢れんばかりの才気と美しさを湛えた聡子に、強く惹かれていく。実は聡子は常野一族の末裔で、「遠目」— 未来を予知する能力を受け継いでいるのだが、まだ誰もそのことに気がついていない。そこへやって来たのが、常野一族の4人家族。彼らは「しまう」— 人の言葉や出来事、そして感情までも、まるごと自分の中に取り込む能力を持っていた。聡子には、いずれこの村を襲うであろう大天災を予知し得た。しかし天災そのものを排除することは、彼女にはできない。また常野一族も、彼女の運命を変えることはできない。誰もが村のためを思い、聡子のためを思っていた。すべては徒労だったのだろうか？ いや、そうではないと、この物語は力強く訴える。できる/できない・わかる/わからないは問題ではない。“わかること”に対していかに行動するか。それこそが肝要であり、また“愛する”ことの本質なのだと、聡子はその生き様で語りかけるのである。それは美しく、また神々しい人間本来の“生”の姿でもある。

体中に汗して働く男たちの
6つの恋の物語



「肉体のスキルを持っている男たち」と作者が表現するのは、鳶職や清掃局の職員、引越し作業員、葬儀屋の職員・・・など、いわゆる肉体労働に従事する人々、本書では彼らを主人公に展開される、6つの恋の物語を収録。体中に汗して働く男たちの息遣い、筋肉の感触をも丁寧な筆致で描く。

[文藝春秋]

愛されること・愛すること
「ありがとう」の涙を込めて



自分を一番愛してくれている人の存在を、その人にもいつか必ず死が訪れるという真実を、どれだけの人が理解しているのだろうか？ 幼児期に両親が別居、母と二人で生きてきた著者の、自叙伝的長編小説。飾らない文章の裏側にある”オカン“への深い愛が、読む者の涙を誘う。

[扶桑社]

新着図書セレクト



さしあたり惹かれるものがなかったら、本を読むのもいい。
この頃みんな本を読まないらしいが、本は自分自身との対話だ。
By 岡本太郎

* 4～6月の新着図書の中から、お薦めの本をご紹介します *



『笑いの力』(河合隼雄, 養老孟司, 筒井康隆著・岩波書店)

請求記号：141.6/Ka 93, 所蔵：L S C

狂言、川柳、落語—、笑いの伝統が数多くあるのに、なぜ現代人は笑いの力を忘れてしまったのでしょうか。笑いを深く考えてきた三人の識者が、古今東西の笑いを考察します。

『壊れる日本人：ケータイ・ネット依存症への告別』

(柳田邦男著・新潮社) 請求記号：304/Y 53, 所蔵：L S C・T L

急激な IT 革命がこの国から奪いゆくものを徹底検証。心の大崩壊時代に歯止めをかけるために、曖昧ゆえに豊潤だった文化の見直しを訴える、警世の現代日本論！



請求記号	タイトル・著者・出版社	所在
019.9/H 73	『大学新生に薦める 101 冊の本』 (広島大学総合科学部 101 冊の本プロジェクト編・岩波書店) 「文理横断型」の知を強調するユニークな読書案内。	L S C
080/C 64/1783	『頭痛の話：片頭痛から遺伝子異常まで』(中公新書) (古井倫士著・中央公論新社)	L S C T L
140.75/O 24	『卒論・修論のための心理学実験こうすればおもしろい』 (小川嗣夫著・ブレーン出版)	L S C
148.3/J 94	『姓名の暗号：あなたの過去、現在、未来のすべてがわかる』 (樹門幸幸著・幻冬舎)	L S C
210.029/A 14	『古文書はこんなに面白い』(油井宏子著・柏書房) 歴史を学ぶ楽しさと古文書を読む面白さが両方いっぺんに味わえます。	L S C
210.58/N 93	『幕末の毒舌家』(野口武彦著・中央公論新社) ゴシップ満載の幕末裏面史。	L S C

請求記号	タイトル・著者・出版社	所在
319.04/Mi 21	『映画で学ぶ国際関係』（三上貴教編・法律文化社） 映画を楽しみ、映画で学ぶ国際関係論の新しいアプローチ。	LL TL
332.1/Mi 97	『耐乏なくして再生なし：日本経済・復活のシナリオ』（水谷研治著・東洋経済新報社）	LSC TL
335/W 46	『起業バカ』（渡辺仁著・光文社） 起業家が必ずはまるワナ、失敗する条件を探る。	LSC
369.26/U 45	『老いる準備：介護することされること』（上野千鶴子著・学陽書房）	LSC
371.42/Mu 62	『事件に走った少女たち』（村山士郎著・新日本出版社） メールにとびかう少女たちの心の深層を読む！	TL
410/H 41	『直観でわかる数学』（畑村洋太郎著・岩波書店）	LSC
493.76/N 73	『自閉っ子、こういう風にできてます!』（ニキリンコ、藤家寛子著・花風社） 自閉の翻訳家と作家が今こそ語る独特の身体感覚と世界観。	LSC
498.3/Y 96	『これならできる簡単エクササイズ』（湯浅景元著・岩波書店）	TL
501.83/N 96	『エモーショナル・デザイン：微笑を誘うモノたちのために』（ドナルド・A・ノーマン著・新曜社）	TL
548.3/N 23	『ロボットは人間になれるか』（長田正著・PHP 研究所）	TL
675/Ko 93	『マーケティング 10 の大罪』（フィリップ・コトラー著・東洋経済新報社）	LSC
726.1/O 26	『ダーリンの頭の中：英語と語学』（小栗左多里、トニー・ラズロ著・メディアファクトリー） 英語や日本語の「？」について、笑って学べる！	LSC
816.5/N 72	『評価される博士・修士・卒業論文の書き方・考え方』（新堀聰著・同文館出版）	LSC
830.7/Ta 77	『決定版英語シャドーイング』（玉井健編著・コスモピア） 聞く力がグングン伸びる！	LSC
910.26/Ko 97	『恋愛の昭和史』（小谷野敦著・文藝春秋） 男と女の機微に真正面から切り込んだ本格恋愛研究の決定版。	TL
910.268/C 63	『三島由紀夫が死んだ日：あの日、何が終り何が始まったのか』（中条省平編・監修・実業之日本社）	LSC
913.4/H 36	『論集太平記の時代』（長谷川端編著・新典社）	NL

※所蔵の【NL】は名古屋図書館、【LSC】はライブラリー・サービス・センター
【LL】は法学文献センター、【TL】は豊田図書館です。



レポート書きませんか？

経済学部 3年生 和田 愛子

レポートを書くとき皆さんはどうしていますか？インターネットで出てきた結果の内容をつなぎ合わせて書いていることが多いのではありませんか？ボタンを押せば結果は一瞬で画面に表示されます。そして、10箇所くらいサイトを見渡せばその場しのぎのレポートを書くこともできてしまいます。しかし、インターネットだけで資料を探していざレポートを書こうとすると、他人の意見の焼き増しになってしまいがちです。それでは出来上がったレポートを読んでいるほうとしても面白くないですし、最悪、評価の対象から外されてしまう事もあります。どうせいやいやレポートを書くならぜひ図書館を利用してみませんか？きっと役に立つはずですよ！

はじめに、図書館のサイトで蔵書検索から本を探してみてください。検索してもらえれば、簡単に関連書籍にたどり着けます。ここまでなら検索エンジンと同じようなやり方で検索できます。検索エンジンと違うのは、検索結果だけからでも本の内容を判断することができるという点です。同じ著者が書いた別の本も一緒に検索できることが多いので、どの作者がどんな内容のものを書いているのかから推測することもできます。また、慣れれば検索結果からすぐに本のありかまでたどり着けるでしょう。もし、わからないことがあっても検索結果を図書館員に見せて、『この本はどこにあるのですか？』など聞けばきちんとたどり着けます。

でも、せっかく本を見つけたのに、『本を読むのが面倒くさい』という人がいます。結局インターネットで調べても、読んでみなければその内容が合っているのかわかりません。同じように本でも、題名、著者、出版社、目次、前書き、本文のなかで目立たせてある文字、図表、後書き、文献目録、索引、奥付などを読んでみるとその本の内容がレポートに使えるかは判断できるかと思います。見つけた本はポイントを押さえて読めば分厚い本でも数分で大雑把な内容はつかめると思います。

もし、見つけた本がレポートに使えるような場合でも、あきらめないでください。見つけた本のそばには似たような内容を取り扱っている本が置いてあるはずですよ。日本にある図書館はたいてい『日本十進分類法』という方法で関連している主題が書かれている本を棚に並べるようにしているので、同じような内容の本が近くに並べられています。

また裏技(?)としては蔵書検索のときに“件名検索”というものも活用してみてください。この検索方法は、文献の中にある複数の主題ごとに見出しになる言葉を抜き出して検索できるようにしたものです。本によっては表題と異なる主題をいくつか纏めて一冊の本にしていることがあります。このような本を図書館員が中身までちゃんとチェックして、本のキーワードを抜き出しているのです。一冊ごとに本を開けて確認する手間が省けて効率よく探せます。この方法の難点は、図書館にもよりますが、たいてい、検索できる語が決められたリストに載っていないと検索できません。例えば、“アウトソーシング”について調べたい場合、“アウトソーシング”を“外注管理”と言い換えて検索しなければならないこともあります。こうして選んだ言葉がリストにあれば簡単に結果を引き出せて、内容としても的外れなことが少なくなります。題名だけではまったく関係なさそうな話でも内容が同じことを論じているものを読んでレポー

トを書けば広がりがあるレポートが書けると思います。

ここで書いたことは図書館での資料の探し方の基礎中の基礎です。図書館は使えば使うほど便利で味のある施設です。これ以外にも図書館を使って楽に探す方法はいくらかでもあります。レポートを書くにしても、図書館員に相談してみると思いもかけないアプローチのしかたを教えてください。(でも、答えは教えてくれませんのでご注意を!!)

図書館をフルに使って面白いレポートを書いてみましょう!

参考文献：『図書館に訊け!』2004 井上真琴 筑摩書房 (ちくま新書 486)

[この本も中京大学の図書館にあります。図書館を使いこなしたいなら読んで損はないです。]

本学教員著作の寄贈図書

請求記号	タイトル	出版社	著者	所蔵館
080/I95/4-909	性転換する魚たち	岩波書店	教養部 桑村哲生	LSC TL
319.1 /Se64	戦後日本の国際文化交流	勁草書房	教養部 金敬黙	TL
324.81 /Ma77	借地借家法の新展開	信山社	法科大学院 橋本恭宏	LSC
324.87/Sa93	ガイドンス戸籍法 (養子縁組・離縁編)	テイハン	法科大学院 澤田省三	LLC
336.17/Ki57	現代経営とネットワーク	同文館出版	経営学部 中村雅章	LSC
336.9/Ta33	時価評価会計論	中央経済社	総合政策学部 高橋良造	LSC TL
338.21/N69	やさしい日本の金融の話	有斐閣	経済学部 千田純一	LSC NL
338.21/Se58	日本の金融システム —新たな課題と求められる姿—	中央経済社	経済学部 千田純一	LSC
498.04/Se17	病と文化	風間書房	教養部 風間孝	LSC TL

*敬称略

☆ご寄贈ありがとうございました

図書館カレンダー

7 月

日	月	火	水	木	金	土
H					1	2
H3	4	5	6	7	8	9
H10	11	12	13	14	15	16
H17	18	19	20	21	22	23
H24	25	26	27	28	29	30
H31						

8 月

日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30	31			

9 月

日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3
4	5	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩
11	⑫	⑬	⑭	⑮	⑯	⑰
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	

H

10 月

日	月	火	水	木	金	土
H						1
H2	3	4	5	6	7	8
H9	10	11	12	13	14	15
H16	17	18	19	20	21	22
H23	24	25	26	27	28	29
H30	31					

11 月

日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	④	⑤
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30			

12 月

日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	31

H

無印は通常開館です。

HH 通常開館時間

平 日

土曜日

H 名古屋図書館

9:00~18:00

9:00~12:30

H 豊田図書館

9:00~20:00

9:00~17:00

H ライブラリーサービスセンター

9:00~22:00

9:00~17:00

H 法学文献センター

9:00~18:00

9:00~12:30

H

■ は休館日です。

H は開館時間短縮 (9:00~16:00 土曜日 9:00~12:00)

H○の開館時間 (平日 9:00~17:00 土曜日 9:00~12:30)

H

★夏季休暇長期貸出期間

・閉架図書 (院生・非常勤講師のみ)

貸出し期間 : 7月1日 (金) ~ 8月27日 (土)

返却日 : 9月27日 (火)

*上記以外の学内者は下記開架図書貸出し期間に準じる

・開架図書 (学内者)

貸出し期間 : 7月19日 (火) ~ 9月13日 (火)

返却日 : 9月27日 (火)

※学外者は通常通り